

さちひろ

天理教狭千廣分教会の広報紙
1面・みんなの教理入門(9)
2面・幸せを届ける言葉
3面・連載・おさしづの点滴
4面・教会の動き・編集後記

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 TEL072-365-2571
E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

教会の動き

- 朝づとめ…毎朝・6時30分
- 夕づとめ…毎夕・7時00分
- 春季大祭…1月21日午後1時30分
- 秋季大祭…10月21日午後1時30分
- 月次祭…毎月21日午後1時30分
- 春・秋季霊祭…
3月22日・9月22日 午後1時30分

※教会の場所は、左の地図のマーク。市立公民館の裏・西側です。



■阪南支部10月例会・おつとめ総会

支部の例会は、毎月30日に、各組で催されていますが、先月は第五組(大阪狭山市)が担当月でした。狭山分教会で五組の方々を中心におつとめをつとめて、無事終了しました。

また、11月5日は、恒例の同支部第五組のおつとめ総会の実施日でした。今年で24回目のおつとめ総会を、狭千廣分教会を会場に、開催しました。組内から老若男女十五名が集まり、それぞれ役割を交代しながら、全員でつとめることができました。終了後、特注の弁当(お吸い物付)を揃っていたいただき、お下がりを配布して、閉会、散会しました。
天理時報の手配りが開始されてちょうど一年。組内一丸となつてのおつとめ総会は、たいへん意義深いものとなりました。

《編集後記》

▼第31号ができました▼いつもはもう少し早い時期に収穫するのですが、今年は暖か日が続いてましたので、柿の葉・実も色づくのが遅れおりました。しかしここに来てようやく色づき収穫することができました。もう一回で全部とれそうです。▼きょうは暦の上からは立冬だったのですが、沖繩では30度を超えたとか。それでも、あすは急に真冬が到来とか。▼前から懸案だった教会神殿の障子の張り替えを、何回かに分けて、家族総出で行いました。室内が明るくなって、冬への備えが完了です。▼そんな話も含めて日々の話題を綴るブログもご笑覧ください。
[#やまさんのブログ](http://sachihiro.com)から入れます。

さちひろ 第31号
編集兼発行人・山口 渡
平成20年11月8日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
TEL・072-365-2571



「みんなの教理入門」連載・9 道を学ぶ

天理大学名誉教授・芹澤 茂

天理教の教えを、天理教学の泰斗・芹澤茂先生がわかりやすく解説します

信仰する人の心には、希望や期待や願いなどの様々の思いがある。その中でも、だれでも持っているのは、“たすかりたい”“たすけてもらいたい”“という思いである。

病気がなおるように
事情が解決するように
仕事があまくいくように
運が開けるように
生きがいを得られるように

このような思いは、人間が生きていく上に必要な、ごく当たり前な、本来の心づかいである。もちろん、“神様”などに頼まずに、人間の知恵で叶(かな)えられるものは、みずからたすかるために努力したらよい。けれども、人間では叶えられないことを“神頼み”するのは、やむを得ないことであつて、このために人間の尊厳が傷つけられるわけではない。

お道を信仰する人は、自分がたすかつて入信する人も、人がたすかるのを見て入信する人も、み

な、“たすかりたい”という願いを抱いている。この心は大切にしなければならぬ。

ところが、ここに問題がある。たすかるために信仰したと思つても、現実には、信仰しても必ずしも直ぐにはよくならない。信仰してかえつてわるくなつたと思えるようなことが起きてくる。そのとき、“信仰などしなければよかった”というような泣きごとを言いたくなる。

このような場合には、泣きごとを言つては信仰にならない。

わたくしが見るのは、親神様が、人間がほこりやいんねんによつて苦しんでいるのがかわいそうであるから、ほこりやいんねんを取つてやろうと、人間を掃除しているのである。掃除すれば埃(ほこり)が立つので一時的には耐えがたいかも知れないが、そこをがまんしていけば、きれいになつてさっぱりする。

掃除のあとの喜ばしさを願えば、がまんするだけでなくて、これでよいという満足の心か湧(わ

幸せを届ける言葉

高橋美津志「ちよつとひとこと」
(善本社刊) から

心の教育

二人の幼児と赤ん坊を連れた女性と、両親とおぼしき人が新幹線に乗ってきた。子供は車内を走り、空席のシートを飛び渡り、菓子のクズを散らかし、赤ん坊は泣き続ける、家族の不法法がまわりの乗客を困らせた。
最近、他人に迷惑をかける親子が増えている。

文部省中央教育審議会は、

「悪いことは悪いとしつげましよう」

「朝の『おはよう』から始めて、礼儀を身につけさせよう」など、家庭での

「幼い頃より心の教育」を提唱したが、

しかし、子供を育てる親が育たなければ、よい習慣は結局、子供に伝わらな

い。

まず親の方が、正しい社会常識を学ば

べきだ。

く。満足の心が湧けば、安心して明るくくらす。

このようにどんなことも喜んでいく心づかいを「たんのう」と言われ、
「たんのうは前生のいんねんをさんげする道(方法)である」と教えられた。親神様は、何事もたんのうしてくれと言われるのである。

ところがここに、第二の問題がある。たんのうの心で信仰していても、いっ

こうによくない場合である。
これには色んな事情があるのでいちがいに言えない。いんねんが深いと説明されることもある。単純に、信仰の仕方がわるいからという場合もある。

みずからの信じ方を反省してみても、もう一度信仰の道を学ぶことも必要である。

信じていけばわかってくるから、そのわかつただけを実行すれば信仰になつていく。ところが、何がどれだけわかつたのか、それすら初めはよくわからな

かったであろう」と言つて、少しづつ教えてもらわないと、うまくいかない。

例えば、「かしまの・かりもの」の教理であれば、「からだは神からの借物である」ことを信じたら、からだを大切にしなければならぬと気付いて、からだにわるいということはほしくないようにする。「心だけが自分のもの」であれば、心を大切に、わるいことを思わず、わるいわざなどによつて心をにごさないようにする。

そのくらいはわかりそうである。しかしこれがなかなかできない。

これは一つの例で、何事によらず初めは、どうしたらよいかわからないものであるが、「このように信仰しているのである」という教理(教訓)を心得ていけば、信仰の道を歩むこともできるし、必ずたすかつていけるのである。

芹澤 茂(現・天理大学名誉教授)

この記事は、昭和59年に「天時時報」紙に連載されたものです。

おさしづの点滴 (10)

修理肥やしの理

一寸には救けるようなもの

たすけと言え、皆修理肥やしの理である。一寸には救けるようなもの、肥えをするようなもの。だんくの肥えを置く、根が差す、芽が吹く、芽が出る、又芽が出るようなもの。

(23・7・1)

【解説】
「だめの教え」に対比して「修理肥」が語られることがあります。おふでさきに、

この事をしらしたいからたんくくとしゆりやこゑにいしやくすりを 11 と記されいます。この世始まりを知らせたいから教祖を通してこれまでだ

九号10

んだんと話をしてきた。そしてこのだめの教えを説くまでの「しゆりやこゑ」として「医者・薬」を教えてきたのである、と解釈できると思います。したがつておふでさきでの「しゆりやこゑ」は「親神直直のだめの教が垂示される以前の話です。

一方おさしづでは、だめの教えの信仰をますますはぐくみ、育てるための「修理肥」という意味で、「たすけと言え、皆修理肥やしの理である」と言われています。修理肥によつてだめの教えの信仰の根がさし、芽が吹き、芽が出るのであります。困っている人のそれぞれの状況をよく「見分け聞き分け」で「早く肥をしてくれるよう」と結ばれています。

【おさしづ全文】

卷一)

明治二十三年七月一日 午後一時

前さしづによりて救助の儀協議取決

めに付願

さあくたすけくという、幾重のた

すけもある。だんくと長い間の道の事、路銀渡した者も、無くなしてた者、一日の日も難しいという者、救助と言え、扶けやい、日々に尽して果たした者困る。たすけと言え、皆修理肥やしの理である。一寸には救けるようなもの、肥えをするようなもの。だんくの肥えを置く、根が差す、芽が吹く、芽が出る、又芽が出るようなもの。成るだけ尽して一時どんならんとする。

運び掛けたる処、一時早く事情、早く肥えをしてやるがよい。どんな芽が吹くやらこれ知れん。日々という、道々という。道は難しい、なか／＼道が難しい。道を通りたというは、なか／＼の道やない。難しい事情に果たした理もある。所々の中見分け聞き分け、一時早く肥えをしてくれるよう。

註・おさしづにおける「修理肥」の意義に

ついては、澤井勇一「心澄みきる教えや

で「修理肥をめぐって」「おふでさき」

「おさしづ」を読む一「『あらぎとうりよ

う』184) 参照。